

山形達也先生（元生命理工学部客員教授）の講演会報告

去る平成 26 年 10 月 18 日（土）に大岡山キャンパスにおいて、元生命理工学部客員教授である山形達也先生の講演会が開催されました。山形先生は、昭和 37 年に東大大学院を卒業された後、名古屋大助教授、三菱生命研研究部長などを経て、平成 5 年から 10 年の間に東工大の客員教授（寄附講座教授）としてご活躍されました。その後、日本皮革研究所理事教授を経て瀋陽薬科大学教授を 11 年間務め、今年退職されました。

山形先生が来られた頃、東工大には数多くの糖鎖研究者が在籍しており、東工大糖鎖研究会なる糖鎖研究の勉強会が始まり、毎年活発にミニシンポジウムが行われました。その際、山形先生にも多大なる御尽力を賜りました。その後、東工大における糖鎖研究者数が減少したのに応じ、関東圏全体を含むより大きな継続組織として、東京糖鎖研究会が平成 12 年に立ち上げられました。東京糖鎖研究会では、山形先生の御退職を記念して、先生ゆかりの地である東工大にて御講演をお願いする運びとなりました。

講演では、瀋陽薬科大学での体験談、これまでのご研究内容、そして、今後の抱負などについてお話しいただきました。瀋陽薬科大学は、もともとは満州にあった満州医科大学附属薬学専門部が前身で、終戦とともに中国に接収され、現在の薬科大学になったそうです。中国内では二年前までは外国人に競争的資金獲得の資格がなく、自腹を切って研究されていたこと、超遠心分離機などの機器類は共通機器だが使用料が高くてなかなか使えないこと、しかし研究費獲得に追われていた日本での研究時代に比べて精神的に幸せな研究生生活だったことなどの体験話や感想をお聞きすることができました。また、中国人学生は自信とやる気満々で良く働き、目上の人を敬うので、とても楽しく研究生生活を送れたそうです。いっぽうで、日本人学生は今後とも情熱を持って研究に取り組んでもらいたいという、参加学生にとってありがたい御教訓をいただきました。研究については、日本で始められた、ガングリオシドが腫瘍転移を抑制する機構の研究などについてお話しされ、癌関連糖脂質 GD1a が MAP キナーゼやカルシウムシグナルの情報伝達に関与していることなど、大変興味深いお話しを伺えました。しかしながら、研究を進めれば進めるほど、「なぜ？どのように？」という疑問が次々と新たに現れ、やり残したことが山積しており、これから研究を始める人には是非この分野で謎を解き明かして欲しいとの激励のお言葉をいただきました。最後にこれからの抱負として、留学生シェアハウスを開設し、留学生 2, 3 人が滞在できるように現在ご自宅を改築中であるとお話しを伺うことができました。

先生の家系は長寿であり、「余生はまだ 30 年以上ある」と生き生きされておられました。先生のご自宅は市が尾にあり、すずかけ台キャンパスから 30 分以内ですので、留学生の方々には是非上記の「山形ハウス」に入居し、先生からのありがたいお話しを伺いながら楽しい留学生生活を送っていただきたいと希望します。ただし、女子留学生を募集とのことでした。

ということで、山形先生とは留学生のことなどでこれからも色々相談させていただきながら、研究を進める上での考え方なども今後ご教授していただきたいと思います。とりあ

えずは、長い間のご研究生活、お疲れさまでした。

(平成 26 年 10 月 28 日 分子生命科学専攻・湯浅英哉記)



写真 1 : 山形達也先生の御講演の様子



写真2：左より、小川先生（慶應大学）、広瀬先生（東工大）、山形先生



写真3：山形先生を囲む集合写真。元研究科長2名と現研究科長がいらっしゃいます。さて、どなたでしょう？その他、何人か懐かしい方々もいます。